

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	74	大学等名	東海大学短期大学部
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本取組は、社会的通用性のある専門職人材育成を目的として3つのポリシーの見直しを行い、成績評価基準やポートフォリオシステムを導入することでディプロマ・サプレメントの提示を可能としている。過去に取得した4つの教育 GP で得られた活動成果を生かし、入口（入学）から中身（就学）、出口（卒業）までの行程を一貫して改革に取り組んでいることは評価できる。また、同種の課題を抱えた他大学の取組も参考にして本事業に生かそうとしており、多様な改革が全学的に進められていることが認められる。
- ・学長を長として本事業の推進にあたる「AP 推進委員会」と、それに外部有識者を加えて組織された「AP 評価委員会」を設置し、学内委員会とも連携しながらそれぞれに活動を行っている。また、年度進行で外部評価も予定されており、客観的なエビデンスに基づいた PDCA サイクルが機能するように実施体制が整備されていることから評価できる。
- ・各年度の計画に基づき、着実に事業が遂行されており、今後の見通しも期待できる。また、平成 28 年度には応募者がいなかったという「あかちゃんひろば」についても、翌年度は周知・広報を行い参加者が確保できていることから評価できる。
- ・本事業で得た知見は本大学の教育システムの根幹をなすものと位置付けられており、今後も発展的に事業展開されるため、補助期間終了後の継続性も十分見込まれることから評価できる。
- ・事業成果を地域別研究会やシンポジウムで事例発表・公表する計画を有しており、同種の課題に取り組んでいる他大学にとっても大いに参考になると思われる。また、取組初年度から年次報告書を作成して全国に発信していることも評価できる。

<改善を要する点>

- ・学生の授業外学修時間が目標に達していない。この値の上昇・維持には不断の学生への働きかけが必要である。しかしながら、平成 28 年度は本事業が年度途中から開始されたことを勘案する必要があることも理解でき、29 年度前期での調査では目標に近い値になっているとのことであるので、29 年度以降の達成を期待する。
- ・選定時に付された留意事項への対応については、それぞれに対策が立てられており今後の成果も期待できる。しかし、一部の項目についてはより具体的な対応策を説明する必要がある。